

2021年12月24日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 108 「健康と適応を守る『心理学的教育』の行く末」 山崎 勝之 (鳴門教育大学)

1) 学会からのお知らせ (<https://kenkoshinri.jp/>)

■第126回/127回 健康心理学研修会のご案内 (研修委員会より)
126回、127回オンライン研修会を2月下旬に予定しております。今年度の研修会は「コロナ禍での健康心理士の役割と実践 part2」をテーマとし、次回は心身の健康や運動、そして禁煙に関する内容です。事前申し込み事前振り込み制となり、詳細は1月のメールマガジンで配信致します。
一般の方のお申込みも可能ですので、お知り合いの方へお声掛けください。皆さまのご参加をお待ちしております。

■ヘルスサイコジスト 86号の発行 (広報委員会より)
ヘルスサイコジスト 86号が発行されました。下記 URL よりアクセスして頂き、併せてご高覧下さい。
https://kenkoshinri.jp/health/pdf/2111_86.pdf

2) 健康心理学コラム Vol. 108

「健康と適応を守る『心理学的教育』の行く末」
山崎 勝之 (鳴門教育大学)

健康と適応を守る「心理学的教育」(psychological education)は、これまで多くの学校で実施されて来ましたが (e.g., Yamasaki et al., 2021)。それらは、児童生徒の健康や適応上の問題の発生を予防したり、重篤化を防いだりするものです。しかし、効果の高い教育プログラムであっても、学校で恒常的に安定して実施されることは出来なかつたようです。なお、この教育を「心理教育」と総称する向きもありますが、この用語の出所からすれば、心理学的教育などの別称で呼ぶべき広がりを持っています。
子どもたちの健康や適応上の問題が増加する中で、効果のあるプログラムが恒常的に実施されることは急務になりますが、その実現への障壁はかなり高いようです。これまで、その必要性が強調されて来なかつたわけではありません。しかし、研究者の姿勢がプログラムを開発し、効果評価を確認することに留まっていたためか、この壁を乗り越えるほどの成果には至っていません。
この領域の研究者は誰もがこのことに頭を悩ませています。そこで、今年度の日本心理学会と日本教育心理学会のシンポジウムにおいてこの領域の研究者と学校教育者が集い、どうすれば壁を打ち破ることができるか討議しました。法的整備、学習指導要領への参入、プログラムの効果、魅力度、実施容易性を高めるなど多くの提案が出されましたが、現実的にそれらをうねりのような活動にどう高めるかが課題となりました。
こうして、プログラムの開発よりも、恒常的安定実施が最重要課題になる段階を迎えています。研究者の叡智と行動力が求められる段階だ

と言えるでしょう (cf. 山崎, 印刷中)。

引用文献

- 山崎勝之 (編著) (印刷中). セルフ・エスティームの研究と教育の再構築 — 概念と測定法から教育方法と効果評価まで — 風間書房 (2022年1月刊行予定)
Yamasaki, K., Yokoshima, T., & Uchida, K. (2021). Effectiveness of a school-based universal prevention program for enhancing autonomous self-esteem: Utilizing an implicit association test as an assessment tool. *School Health*, 17, 20-28.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 < jahp@pac.ne.jp >

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 < jahp@pac.ne.jp >

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<https://kenkoshinri.jp/health/health1.html#mailmaglist>